

2021 文化で滋賀を元気に!賞



大賞 活かして育てる! 里山の回想遺産文化賞

山内エコクラブ / 甲賀市

(受賞者・団体/主な活動地域 以下同じ)

【講評】

山内エコクラブは、限界集落が増える現代的課題に対して、高齢者・子ども・自然・生物・歴史・食べ物など里山に残る全てを総動員し、地域を紡ぎ直しているプロセスが素晴らしい。特に、地域資源を可視化した「ふるさと絵屏風」は、高齢者の記憶による里山の豊かな様子を表現しており、これを活かしたDVDや紙芝居の作成はユニークで、制作物の完成度も高く、学校への出前講座や地域教材の提供などにも活かされている。これらの活動が引き続き、独自性・発展性・自主性・効果性を発揮して更なる活動へと進化していくことを期待したい。「ふるさと絵屏風」には、日本人が大切にしてきた価値観や伝統文化、信仰心、結い、自然の営みや共生が描かれており、こうして記録として残すことはかけがえのない財産となる。里山の持つ課題解決の提案、高齢者を巻き込んだ社会貢献と、歴史・文化の伝承を図る点も評価したい。

また、「それいけ!野洲川探検隊」(野洲川エコスクール)も定期開催しており、野洲川流域の複数の小中学校の子どもと保護者たちが、川の診断と水文化の調査を進めていることも評価したい。活動したことを子どもたちがまとめ、壁新聞に書き、様々な場で発表している。「子どもたちには、これからも体験して調べたことや考えていることを自分の言葉で表現し、プレゼン力を高めるとともに、多くの人に里山の経済的・文化的価値を伝えてほしい」と、期待する。

受賞団体について

山内エコクラブは、「里山の智恵が未来をひらく」をスローガンに「地域資源の見える化」「主体的・対話的な学びの創造と自然・文化の伝承」を進めている。

クラブの発足は2009年。現代っ子たちが知らない昔の暮らしぶりや生活の知恵、消えゆく風習をお年寄りから学ぼうと、当時、山内小学校の校長だった井阪尚司さん(現クラブ副代表)の呼びかけで、子どもたちとその保護者が一緒になって地域の宝探しがスタートした。

地域の伝承や水と暮らしの工夫、川調査などをジャンボ絵本や創作狂言にして、いい川・いい川づくり全国大会(準グランプリ2度受賞)や淡海川づくりフォーラム(グランプリ)などで発表したことが自信となり、一気に活動が広がった。

2016年から、山内地域の昔の風景や暮らしの聞き取りを始め、翌年、2年間かけて六地区全ての「ふるさと絵屏風」を制作、完成させた。絵の筆を持ったのは、聞き取り調査に協力した多くのお年寄りや学生。そして、すべて「主役は地域の人」「笑いと対話」を心がけて、絵屏風に描かれている民具「箱膳」を復元してエコツアーを企画したり、「七輪」「箱膳」の使い方のDVDの制作や昔の暮らしや聞き取りを元にした紙芝居作成等を行ってきた。現在は、甲賀市歴史文化財課との協働取り組みが進み、学校や地域に出向きながら、民具や絵屏風を活用した「ふるさと回想法」へと展開している。

クラブ代表の竜王真紀さんは、「これからも高齢者が参加・活躍できる役割づくりや生き甲斐づくりをサポートしていきたい。また次代を担う子どもたちが世代間交流や野洲川エコスクールによって地域のお年寄りの智恵や願いを学んでほしいと思う。「なんにもない地域や」が口癖の地域でも、磨けば誇れる里山文化があることを他の地域にも伝えていきたい」と、話している。

表彰概要

- 表彰の種類 (1)各賞 文化で滋賀を明るく元気にし、活力あふれる地域社会の実現に貢献している団体または個人(若干名)
(2)大賞 (1)の受賞候補のうち最も評価された団体または個人(1名)
(3)各賞の名称は、推薦者からの提案に基づき決定
- 表彰式 令和4年2月12日(土)14:20~ びわ湖ホール小ホール ※受賞者には賞状と賞金(大賞10万円、各賞5万円)を贈呈。
- 募集期間 令和3年8月1日(日)~令和3年10月31日(日)
- 候補者 募集期間内に推薦書を文化・経済フォーラム滋賀に提出。自薦、他薦は問わない。
- 選考 令和3年12月9日(木) 選考委員会で審査を行い、大賞・各賞を選考。
選考委員 秋村 洋【(株)プラネットリビング代表取締役】、北川 正義【(株)しがぎん経済文化センター取締役社長】、高梨 純次【(公財)秀明文化財団理事】、南 千勢子【ピアニスト】、山本 勝義【(株)ビルディング・コンサルタントワイズ代表取締役】

写真でまちを元気に!文化賞

長浜ローカルフォト / 長浜市



長浜市内に住む人やその暮らしぶりをカメラのレンズを通して新たな視点で切り取り、地域で暮らすことの魅力を発信している「長浜ローカルフォト」。記事も添えホームページやSNSなども活用して、長浜ファンを増やすと同時に、長浜で暮らす人たちにも故郷の良さに気づいてもらい、誇り(シビックプライド)を持ってもらいたいと撮影に励んでいる。

2016年、市の地方創生事業として「長浜ローカルフォトアカデミー」がスタート。「ローカルフォト」のコンセプト提唱者である写真家のMOTOKOさんを講師に、市民を対象に3年間修業した受講生が2019年「長浜ローカルフォト」として独立、現在40~50代の9人が活動している。

最初の一步は滋賀県北部の過疎と高齢化が進む34世帯の暮らす限界集落、長浜市余呉町菅並集落を題材に取り上げた。余呉型民家と言われる三角屋根の家屋が特徴で日本の美しい原風景が並ぶ菅並をもっと多くの人に伝えたいと思ったからだ。撮影活動の集大成として2019年9月に集落まるごとを展示空間に仕立てた写真展を開催、笑顔いっぱいの住民の等身大パネルや家の壁いっぱいの特大集合写真など約50点を集落のあちこちに登場させた。同時開催の市のイベントと相乗効果もあって、期間中、県内外から約2000人が訪れ、普段静かに暮らす村人たちを驚かせた。代表の田中香織さんは「菅並ファンも増やせたと同時に、これまで当たり前と思っていた生活や村の景観がどんなに素晴らしいかを村の皆さんも気づき、村に誇りと愛着を今まで以上に感じてもらうはず」と、振り返る。写真集も制作し、全国からの申し込みが100冊以上もあった。

2020年には長浜市木之本町金居原集落に1年間通い、ここでも写真展の開催と写真集の発行、2021年には長浜曳山祭の舞台裏に焦点をあてて撮影した写真展の開催、さらに町を歩きながらの撮影会も開くなど意欲的だ。誰にでも手に取れる「カメラ」というツールを通じ、各地の現状やそこで暮らす人の記憶を記録するという意味でも必要な取り組み。これからも山間部や湖辺など広域にも活動を広げつつ、ますます人、地域、文化をつなげる活動に期待したい。

太鼓でみんなを笑顔に文化賞

和太鼓とんとこ / 大津市



大津市内を拠点に結成して25年以上演奏活動を続ける「和太鼓とんとこ」。地域のお祭りや養護学校の行事に参加したり、病院などの施設を訪問して演奏活動を行っている。一体感のある迫力ある演奏は「聞く人の心に真直く響く」と好評で演奏を待ちわびるファンも多い。

現在「とんとこ」の相談役になっている堀川文代さんが、栗東市の障害のある子どもたちが演奏をする「和太鼓TAO」の姿に感銘を受けたのがきっかけでスタートした。当時8歳だった障害のある長男、達也さんのためにも一緒に太鼓を演奏する仲間作りをし、みんなと一つになって熱中できる体験をさせてやりたかったからだ。1995年、同じく障害のある子どもを持つ親の会の仲間に呼びかけ、和太鼓サークル「トントコ」を結成した。表彰やコンテストの入選など活動の幅の広がりに合わせてサークル名を「和太鼓とんとこ」と変更。

現在は障害のある小学低学年から社会人、その保護者や兄弟ら35人の大きな輪になっている。文代さんと34歳になった達也さんは今では頼りになる中心メンバーだ。

すぐに和太鼓に熱中する子、1年たつてやっと太鼓のばちが持てる子など様々だがみんな楽しそう。「親子だけで過ごすとしんどくなる時も、ここに来てそれぞれのペースで演奏し、新しい仲間との出会いを楽しんでもらいたい」と、9年前から親子で参加している代表の佐藤渉さんは新しく入って来る仲間たちを優しく見守っている。我が子のようにメンバーの成長を慈しみ、胸をいっぱいにして演奏を聴いてくれる人たちも多いという。堀川さんは「多くの人に支えてもらい、成長してきました。元気いっぱい太鼓を打つ姿が恩返しです」と、演奏活動に思いを込める。今回の表彰を契機に地域社会との繋がりを深める「和太鼓とんとこ」の活動に刺激を受けた人から和太鼓を志す人が増え、滋賀で和太鼓文化が更に盛り上がることを期待したい。

城下町に響くオーケストラの調べ文化賞

彦根エコーオーケストラ / 彦根市



城下町彦根の地に誕生して、この春25周年を迎える彦根エコーオーケストラ。

1997年2月にひこね市文化プラザの開館を記念して「エコーメモリアル・チェンバー・オーケストラ」が発足。21年目には、より地元で誇れるオーケストラになりたいと「彦根エコーオーケストラ」に改称した。

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団のコンサートマスターの戸澤哲夫さんを迎え、国内外から彦根ゆかりのプロの実力演奏者達が集結。日本のトップクラスのアンサンブルを目指し、1年に1回の定期演奏会を開いてきた。

品の良い落ち着いた音色が特徴でバッサ、ハイドン、モーツァルト等少人数編成の合奏曲も評価が高い。定期演奏会ではチケット完売が続いてきたが、コロナ禍の影響で、2020年、21年は休演、今春3年ぶりに開催する予定だ。

定期演奏会のために地元に戻ってきたメンバーらは、地域の人に音楽の楽しさを伝えようと、毎年欠かさず演奏するコツなどを指導する楽器クリニックを開催してきた。その結果、指導を受けた小中学生が触発されて音楽大学に進み、プロの演奏家として活躍し、彦根エコーオーケストラのメンバーとしても参加している。

「地域の皆さんがこの楽団を身近に感じ、愛して下さったことが受賞理由の一つかもしれません」と、フルート奏者で副代表を務める井伊亮子さん。歴史と文化の情緒あふれる城下町、彦根で生まれ、成長しているこのオーケストラは、大津でも過去2回演奏会が開かれており、滋賀県発のプロのオーケストラとしても注目されている。彦根の音楽文化向上に大きく貢献し、自主運営での長年の苦労は並々ならぬもの。技能を生かした地域貢献が、一流の音楽とともに、子どもたちの心の学びに繋がっている。その貢献への敬意と、今後の更なる発展にエールを贈りたい。